

ソーシャルワーク応用実習指導

[講義・演習] 第4学年 前期 選択 1単位

《履修上の留意事項》4年次に開講されるソーシャルワーク応用実習及びソーシャルワーク応用実習指導を履修予定の学生は必ず履修すること。
4年次にソーシャルワーク実習及びソーシャルワーク実習指導を履修する学生の履修は実習日程等の点から困難となるため留意すること。
遠隔授業のみ実施

《担当者名》 近藤 尚也 ○巻 康弘 大友 芳恵 志水 幸 長谷川 聡 福間 麻紀 中田 雅美
松本 望 片山 寛信 (主担当、副担当○)

【概要】

4年次に実施されるソーシャルワーク応用実習に対する実習指導教育の科目である。さらに、ソーシャルワーク応用実習は実践と研究の視点を深めながら社会福祉実践の統合化を図ることを特色とする。従って、この科目を選択する学生は、「卒業論文」や「現場体験を深める」等の自らの自主的な学習目的と課題をもって実習に臨むことが必要である。

【学習目標】

実習分野の特性を説明することができる
自らが設定した実践的課題に関する振り返りができる
自らが設定した研究的課題について深めることができる

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 ┆ 2	グループ指導	・実習課題を具体化することができる ・実習課題に関わる事前知識・技術を習得することができる	大友、志水、長谷川、 巻、福間、中田、松本、 片山、近藤
3 ┆ 4	グループ指導	・実習施設・機関との実習前の打ち合わせを行うことができる ・実習における課題とプログラムを具体化することができる ・実習に関わる事前知識・技術を習得することができる	大友、志水、長谷川、 巻、福間、中田、松本、 片山、近藤
5 ┆ 15	グループ指導	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成果を説明することができる ・実習体験を通じた新たな課題を明確化することができる	大友、志水、長谷川、 巻、福間、中田、松本、 片山、近藤
16 ┆ 20	グループ指導	・自ら設定した実習課題に対する実習体験を通じた成果を説明することができる ・実習体験を通じた新たな課題を明確化することができる ・実習報告書作成指導	大友、志水、長谷川、 巻、福間、中田、松本、 片山、近藤
21	グループ指導	・実習体験を振り返りまとめることができる (実習報告会準備等)	大友、志水、長谷川、 巻、福間、中田、松本、 片山、近藤
22	実習報告会	実習の成果を報告し、学生、実習指導者、教員の三者で共有できる	大友、志水、長谷川、 巻、福間、中田、松本、 片山、近藤
23	グループ指導	・ソーシャルワーク応用実習のまとめ	大友、志水、長谷川、 巻、福間、中田、松本、 片山、近藤

【評価方法】

グループ学習への参加態度、提出物、実習報告書などをもとに総合的に判断する。

【備考】

教科書 : 必要に応じてプリントなどを配布する。

(保健医療分野)

(公)日本医療社会事業協会編『保健医療ソーシャルワークの基礎』相川書房 2015

(一社)北海道医療ソーシャルワーカー協会編『保健医療分野における社会福祉実習～実践的実習マニュアル～』

(一社)北海道医療ソーシャルワーカー協会 2014

参考書 : (保健医療分野)

(社)日本医療社会事業協会『新訂保健医療ソーシャルワーク原論』相川書房 2006

【学習の準備】

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

実習領域に関連する文献や資料を読むこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.1.3.4.5

【実務経験】

大友 芳恵(社会福祉士)長谷川 聡(ソーシャルワーカー)巻 康弘(社会福祉士)福間 麻紀(社会福祉士)中田 雅美(社会福祉士)松本 望(社会福祉士)片山 寛信(社会福祉士)近藤 尚也(社会福祉士)

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。